



## 平成22年度 東北農政局長賞

「わんどの畑」が合言葉 みんなが笑顔の「おもてなしの心」満載のむらづくり

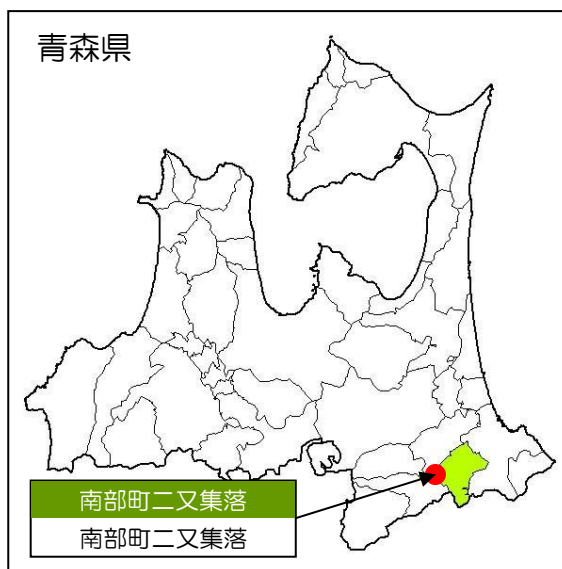
### 『南部町二又集落』

(青森県三戸郡南部町 二又集落)

#### 【むらづくりの経緯・動機等】

◆二又集落は、南部町の西端に位置する傾斜地の多い中山間地域である。◆農業後継者の減少に伴い、耕作放棄地の拡大や集落環境の維持が心配され始めたことから、平成14年の中山間地域等直接支払制度の活用を契機に「二又中山間組合」を設立した。◆また、集落の主力品目であるりんごの価格低迷や地域の活力低下に対応するため、同年に「二又観光農業振興組合」を設立し、りんごやもも、野菜といった集落の農林産物や郷土食等を活かすことのできる観光農園を核としたむらづくりを開始した。◆取組みを重ねるに従い、非農家も含めた全戸でむらづくりを盛り上げたいとの意見も出てきたことから、平成19年に二又観光農業振興組合を発展的に解散し、集落全26戸が参画する体験型観光農園プロジェクト「わんどの畑」とし、若手からなる実行委員会を組織して各種活動を展開している。

#### ＜位置図＞



#### 【推進体制】

◆全26戸が加入する「二又町内会」をベースに、中山間地域等直接支払制度を活用し集落環境の維持活動等を行う「二又中山間組合」、観光体験農園の運営やグリーン・ツーリズム事業等を行う「わんどの畑実行委員会」、その他、「二又農業組合」、「生活改善グループ」等が組織され、活動している。◆これらの組織は、ほとんどの構成員が重複しており、それぞれの組織に共通する事業として、非農家も含めた集落全員参加によるむらづくり活動を行っている。

#### ＜地区の概要＞

| 事項             | 内容  |          |   |         |    |   |          |    |   |         |
|----------------|---|----------|---|---------|----|---|----------|----|---|---------|
| 地区の規模          | 集落（1集落）   |          |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 組織の性格          | 地縁的な集団  |          |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 農家率<br>(内訳)    | 46.2 %<br>(総世帯数 26 戸)<br>(農家数 12 戸)   |          |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 販売農家数<br>(内訳)  | 12 戸<br>(専業農家 3 戸)<br>(1種兼農家 5 戸)<br>(2種兼農家 4 戸)  |          |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 主要作目<br>(作付面積) | <table border="0"> <tr> <td>水稻</td> <td>(</td> <td>5.9 ha)</td> </tr> <tr> <td>果樹</td> <td>(</td> <td>13.4 ha)</td> </tr> <tr> <td>野菜</td> <td>(</td> <td>5.3 ha)</td> </tr> </table> | 水稻       | ( | 5.9 ha) | 果樹 | ( | 13.4 ha) | 野菜 | ( | 5.3 ha) |
| 水稻             | (   | 5.9 ha)  |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 果樹             | (   | 13.4 ha) |   |         |    |   |          |    |   |         |
| 野菜             | (   | 5.3 ha)  |   |         |    |   |          |    |   |         |

資料：国勢調査、農林業センサス(H17年)

### 【農業生産面への寄与状況】



◆観光農園の取組みを契機として、多品目の果樹が生産されるようになり、また、来園者のニーズに対応して、野菜の生産も徐々に拡大している。◆流通面では、消費者との直接取引も増加するなど、新たな販路開拓も進んでおり、消費者の生の声を聞くことによって、生産意欲の向上にも大きな影響を与えている。◆また、新たな品種

や樹種、野菜の導入など、経営の複合化が推進されたことによって、農産物価格の低下等による収入減のリスクが大幅に低減され、経営が安定してきており、農業後継者も育ってきている。

### 【生活・環境整備面への寄与状況】

◆観光農園の取組みを契機に、外部からの来訪者を迎え入れるための意識が強くなり、従来から集落内の景観向上のために行っていた花壇づくりに加え、中山間地域等直接支払制度を活用してフラワーロードを整備し、新たな農村風景として定着させている。

◆また、観光農園のPRのため、消費者交流会を毎年開催し、郷土食の提供や地場産品を使った料理教室などを行っている。最近では30代の若手農業者も積極的に活動に参画し、年々内容が充実してきており、消費者から好評を得ている。リピーターも増えつつあり、農業者のみならず集落住民全員が参加できる取組みとして定着している。

